

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300033		
法人名	有限会社もろがみ		
事業所名	グループホーム両神		
所在地	岐阜県加茂郡白川町河岐711番地		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191300033&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年8月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

重要事項説明書の「ホームの目的」に述べた以下のとおりである。〔認知症症状のあるお年寄りに、普通に生活することを通して、それぞれが持っている、忘れかけた能力を十分に発揮して頂くことにより、生き生きとした生活を送り、自分らしさを取り戻すことを目的とします。〕また「ホームの運営方針」としては「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」一人一人の、その人らしさを大切に生活を送る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは町の中心地にあり、また、役場のすぐ近くで、公共施設や商店街も近いというメリットがある。病院を改修した建物であり、改修には、地元産の木材をふんだんに使い、香りがあり、温もりと心安らぐ造りとなっている。代表者を中心に、「なんでも話し合える家族のような関係」と位置づけて、「ゆっくり・いっしょに・楽しみながら」を、全職員で実践している。地域の人々と積極的に交流を深めた結果、運営者のひたむきに取り組む姿勢と、ホームの担う役割が理解されている。地域の一員としての関わりを大切にすることで、地域からは、高齢者の有用な福祉拠点として、受け入れられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な生活環境を提供しながら残存能力を生かした生活を提供する」と言う方針に添って共に実践して行く努力をしている。	地域の人々と交流しながら、その人らしい生活を送ることができるように、分かりやすい理念を掲げている。理念である「ゆったり・いっしょに・楽しみながら」を目線に掲示して、日々確認し、その人らしく、家庭的な暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア(NPO法人あんじゃない)の活用も含めて、地域とのつながりを大切にしている。	ホームは、住宅に囲まれ、役場や商店街も近くにある。近隣の人々とは、顔なじみであり、日常的に挨拶を交わしている。ホームのイベントには、自治会の回覧で呼びかけ、子どもも含め、毎回、大勢の参加者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の皆様はこの事業を理解して頂く事を目標として、催し物や講和を通じて認知症の人々に少しでも接して頂く機会を続けて行こうとしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催している。現在メンバーは5名で、様々な角度からのご意見も頂ける様になって来ました。	会議は、家族、行政、地域包括センター、近隣の代表が参加し、2ヶ月ごとに行われている。介護上の課題や防災体制が討議されている。夜間、1人体制を不安に感じる意見があり、連絡指導体制を整えている。	民生委員や自治会長等の参加が得られていないので、運営推進会議の意義を説明し、会議に出席してもらえりる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の福祉課も近いので、諸々の手続き等には出向いて担当の方のご協力を頂いております。又普段の状況等は電話でお知らせしている。運営会議を通じて良い連携が取れていると思います。	役場が直ぐ目の前にあり、担当者が直接出向いてきたり、相談に行ったり、相互に協力関係ができています。補助金情報、加算手続き、他市町村からの入居手続きなどで、指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」に関しては日頃の話し合いを密にしている。身体拘束になるような行為は無いが、危険回避の為に施錠する場合があります。	全職員で話し合い、身体拘束をしないケアを実践している。入浴時間帯による人手不足のときや、夕方に帰宅症状の強い場合は、家族に説明し、一時的に施錠することがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待と思われる行為は全くないが、折に触れ、話し合っている事柄ではある。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この点については学習する機会を持たないが、今まで問題を有する家族がいない為制度を利用した事ことが無い。今後の学習課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約事項及び重要事項説明書については丁寧に説明し、疑問点についても納得して頂いている。今後		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多い為、その度々にホームでの生活状況等をお知らせしたり、またご家族からは利用者の過去での生活について聞いたりしている。 又「お知らせ」として便りを出す事も有る。	家族の訪問が多いので、その都度、意見要望を聞いている。家族からは、「自分でできる事は、散歩も適度に、やらせてほしい」との要望があり、ケアに反映させている。	家族の面会時に、意見を聞いているが、さらに、多様な意見を把握するには、通い帳や書き易いアンケート方式などの工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝ミーティング(ミニカンファレンスと呼んでいる)を行い、情報交換や意見・提案等を話し合える機会を設けている。	代表者は、毎朝のミーティングで、職員の意見を聞いている。夜間1人で対応することへの、不安に対するフォロー体制や、社会保険加入などの処遇についての意見がある。短期・長期に仕分け、解決できるように、取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「介護職員処遇改善」制度によって、年2回手当の見直しがされるようになった事は喜ばしいが、まだまだ充分だとは思えない。今後の重要な課題と認識しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受けられる機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加は勤務状況に苦慮しながらも、出来る限り参加できるように努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業のGHとの交流はほとんど無い状況である。今後は努力して勉強会等共有出来たら素晴らしい事と推察できるが、その方法や時間の取り方等課題ばかりが頭に浮かぶ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面接出来る場合と家族からの聞き取りだけという事もある。その他 利用者の担当ケアマネより出来るだけの情報を得られるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至までには家族との面談は数回行い、状況を確認しながら、その最大のニーズと要望を見つけられるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を確認して、サービス内容を検討考慮し、家族へ説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎朝の唱和(GH両神の10ヶ条)にも書いてあるが、「暮らしを共にする者同士」という考え方を確認したり、その意識を忘れないような接し方を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内の出来事や本人の普段の様子や生活状況等をご家族の面会時になるべく詳しく説明するように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者には出来るだけの来所を促している。	ホームは、夏祭りなどのイベントを数多く開催し、近所の人や親戚、子どもたちを招待し、関係づくりを支援している。職員の車に同乗し、馴染みの店で買い物をしたり、自宅周辺を定期的に廻っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮して、食事の際のテーブルの席を変えたりと必要に応じて行っている。利用者の状況変化により度々変える事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された方々等には面会に行くようにして、病状の改善具合等を把握したり、今後についての相談等の支援もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からその時々「声かけ」をこころがけ、利用者の希望や意向を把握出来るように努めている。	ケアの場面で、話を聴いたり、表情や気分の状態で、思いや意向を把握している。職員は、利用者の建前と本音の部分や、微妙な気持(心理)も、よく把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やその家族また入所前の担当ケアマネ等から情報を収集してサービスに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態や精神面と行動の変化については毎日記録している。(朝夕の申し送り時にその日のリーダーが記録する係りである)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で情報を共有して介護計画に反映している。定期的な見直しも含め、状況に応じて変更している。受け持ち制度を採用している。	看護師を中心に、職員の意見や気づきを出し合い、家族と話し合っている。その結果を受けて、本人にとって、暮らし易い、介護計画を立てている。3ヶ月の定期見直しと、変化に応じて、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子は毎日記録されている。その内容を職員各自が確認しながら共有を諮っている。「申し送りノート」を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟なサービス・支援については対応出来る体制は出来ている。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握して支援に繋げる取り組みは未だ出来てとは言えない。NPO法人あんじやないとの連携でもう少し可能性を探りたいと考える。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医へ受診に行くことについては、家族と連携を取りながら行っている。	個々のかかりつけ医へ、受診を支援している。受診は、家族の同行を原則としているが、都合によっては、費用を負担してもらい、職員が付き添っている。看護師が常勤しているので、利用者の情報を、主治医へ的確に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職の連携は良く出来ていると思う。日常の係わりの中で捉えた情報や気づきを互いに伝達しあって、通常の受診時や緊急時にも対応できる準備は整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の医療機関との協働は相手側の対応によって色々なケースがあるので、いつもスムーズとは言えないが、出来る範囲の中で関係作りには気を配っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針は家族と意見の取り交わしはしていない。現実的に直視しなければ方針決定は出来ない現状である。	現段階では、協力医との24時間体制は難しいので、ホームの出来る範囲は限定される。主治医の助言の下、ホームが出来るケアの限界を見極め、医療機関へ委ねる方向で検討している。	利用者の身体的な限界や、食事や水分摂取ができなくなる前段階を、何処で判断し、関係者と共有するのか、家族と共通認識を持つ書式等を整えることが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルが未だ出来ていない。つくり上げてゆく段階。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民との合同防災訓練を考えているが、未だ実効はされない。地域協力のガイドライン作りをしなければいけない。	避難誘導訓練は、計画中である。避難経路の特定や、消防署への直通通報装置、スプリンクラーは、完備しているが、地域との協力体制は、運営推進会議でも、話し合いの段階である。	消防署の立会いと指導の下で、年2回以上の防災・避難訓練を実施されたい。夜間を想定した自主訓練や、住民参加の訓練も期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務は毎朝の「朝の唱和」から始め、職員の一人一人が利用者の一人一人に対して、その個人の人格と尊厳を大切に思いながら、言葉かけや対応に心掛けている。	ホームが作成した倫理綱領のなかに、尊厳とプライバシーに配慮するよう定め、全職員で共有している。トイレ使用中や入浴中はカーテンを閉めるなど、さりげない声かけに配慮している。また、遠くから、後ろから声をかけないように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中において、利用者の一人一人が自由に話しの出来る環境作りは出来ていると思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活をしているので、ある程度は「一日の流れ」に則して行動してもらうが利用者のペースは大切に考えて見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身体の清潔を第1に考えているものの、決して無理じいする事の無いよう利用者の状態・状況に応じて自由な流れを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は近くのスーパーで購入したり、配達して貰ったりして、ほぼ手造りの料理を出すようにしている。漬物等は利用者と共に作ったりしている。食事の準備は出来る事は一緒におこなっている。	食材の買い出し、下ごしらえ、盛り付け、片付け等を、職員と共に行っている。利用者が、身体で覚えている「ほう葉寿司」「漬物づけ」などで、生きいきと楽しそうに関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取・水分補給の必要性は充分把握しており、「申し送り」で連絡・確認は密にしている。排泄チェックには特に気を使っている。調理においては嚥下状況等も観察の上、ミキサー食・とろみ付けにも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔清拭(口腔ケア)を行っている。義歯消毒は週に1回実施している。嚥下状況に応じてガーゼ等を使用して口腔内を清拭している。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導や排泄介助は利用者の尊厳を主に考慮し支援している。	排泄チェック表に基づいて、声かけトイレ誘導を行っている。個々の水分摂取量や時間間隔を考慮し、失敗の少ないように支援している。夜間に課題のある人には、ベッドの下に、コルマットを敷き、動きを把握して誘導に繋いでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容には気を配り、又水分補給はある程度時間を決めて行っている。個人個人の排泄パターンを把握する事も重要だと考える。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施している。無理強いほしくないように、入浴をしたくなるように工夫したり個々の希望も聞きながらおこなっている。	入浴は、週3回が基本であるが、希望により自由に楽しく入ってもらっている。その日の気分によって、順番にこだわったり、消極的な人もいるが、身体をきれいにしてから、料理の手伝いをしてもらうことで、応じてくれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠に関してはかなり自由で、個々の状態・状況によって、日々変化は有るものの昼夜の逆転はないように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容と方法はきびしく指導し、確認作業に十分な注意を払うように話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「家族を守る」というテーマに基づいて、支援も含めて「楽しい一日」を過ごせるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出については、全く満足出来る状況にはなっていない。現在は数人の散歩・買い物に留まっているのが現状である。	周辺は坂道が多く、車椅子での外出は難しい。ホーム内の居間や廊下が広いので、中を移動して体を動かしている。さらに、見晴らしのよい平面(箱型の建物)の屋上で、外気浴を支援している。	歩ける人には、買い物の機会があるが、車椅子の人にも個別の外出支援が望ましい。広い前庭に出て、土や草花に触れるなどの工夫を期待したい。

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人ではあるが、職員が同行して買い物ができるように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に出来るようにしているが、代理で番号を押ししたりはしているが、頻繁ではない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心できる生活空間を保つように努力している。屋上からの景色は広々して良い。	建物は、産院であったビルを改修している。対面キッチンで食堂・居間の空間にゆとりがあり、人の動きにも余裕がある。各職員が、自宅から季節の花を持ってきて、随所に飾っている。壁には、カレンダーや、ぬり絵などの手づくり作品を飾り、生活感を出すよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大部分の時間はホールや和室で過ごしている。それぞれの居室は昼食後の休養と夜間の睡眠の為に利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	支援し易いような居室環境になっているが、家族や利用者の希望は出来る限り受け入れて対応している。	居室には、畳の上にベッドがあり、畳の感触を楽しむことができる。壁掛け(タペストリー)や家族の写真、皇室の写真入カレンダー、位牌の持ち込みもある。しかし、いくつかの部屋には、馴染みの物が少ない。	物が少なく、支援し易い環境ではあるが、出来るだけ家族と話し合い、繁雑にならないように、馴染みの小物などを取り寄せ、安心して、心地よく過ごせるような工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事や残存能力を生かす支援をしている。		